

地域ブロック情報



日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。

今号では、中部地域ブロックおよび関西地域ブロックの活動についてご紹介いたします。

中部地域ブロック から

中部地域ブロック担当理事
山田 壮志郎（日本福祉大学）

中部地域ブロックの主な活動は、①研究例会の開催、②機関誌「中部社会福祉学研究」の発行、③大学院生・若手研究者のための勉強会の開催の3つです。

研究例会については、毎年1回、春の研究例会として開催しています。最近では、自由研究発表、後述する大学院生・若手研究者のための勉強会、シンポジウムの3つで構成することが多くなっています。シンポジウムでは、毎年のタイムリーなテーマを取り上げ、記念講演やパネルディスカッションなどを企画しています。ここ最近では、介護保険制度の見直し、子どもの貧困、障害者差別解消法などを取り上げてきました。なお、2017年度の春の研究例会では「相模原障害者殺傷事件から問い直す“社会”と“福祉”」をテーマに、立岩真也先生（立命館大学）による記念講演とパネルディスカッションを予定しています。ブロック外の皆様のご参加も歓迎いたします。

機関誌「中部社会福祉学研究」は、2009年度に創刊し、2015年度までに第7号まで発刊してきました。毎回数本の論文や研究ノート、書評が収録されているほか、最近では、前述した春の研究例会でのシンポジウムの内容を掲載することも試みています。また、社会福祉にかかわる映画評などユニークな論考が収録されることもあります。機関誌のバックナンバーは学会ウェブサイトの中部地域ブロックのページからダウンロードできますので、ぜひご覧ください。

大学院生・若手研究者のための勉強会は、ブロック内の若手研究者育成の一助になるべく、2013年度からほぼ年1回のペースで開催してきました。ブロック内の若手研究者に研究方法や研究内容を紹介してもらったり、2014年度には岩田正美会長（当時）から若手研究者に向けたメッセージを語ってもらうことを企画したりもしました。中部地域の福祉系大学院では、社会人向けの大学院も増えてきました。今後は、大学院を目指す現場の実践者や社会人院生の研究力向上につながるようなプログラムも企画していきたいと考えています。

さて、2016年5月24日、中部地域の社会福祉研究をリードされ、本部会の活動にもご尽力いただいた高島進名誉会員が逝去されました。本部会では、11月に「高島進先生から何を学び引き継ぐか」をテーマにした追悼シンポジウムを開催し、活発な議論が交わされました。高島先生をはじめとする諸先輩方が残された功績を受け継ぎながら、今後も中部地域の社会福祉学の発展に貢献していきたいと思っております。

関西地域ブロック から

関西地域ブロック担当理事
岡田 忠克 (関西大学)

関西地域ブロックでは、1950年に設立された関西社会福祉学会の年次大会としての位置づけとして、毎年、研究大会が関西の各大学の持ち回りで開催されています。今年度は、3月11日土曜日に関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスにおいて「地域生活支援のためのメゾソーシャルワーク実践についてー路上生活者や引きこもり、薬物依存者の人に焦点を当てて」をテーマに、コーディネーターを牧里毎治会員にお願いし、泉佳孝氏（神戸保護観察所統括保護観察官）、倉田めば氏（NPO 法人大阪ダルクディレクター、Freedom 代表）、勝部麗子氏（豊中市社会福祉協議会福祉推進室長）、白波瀬達也氏（関西学院大学社会学部准教授）をシンポジストにお迎えして議論を深めていきます。シンポジウムでは、実際に現場でミクロとマクロをつなぐメゾソーシャルワーク実践に関わっておられる方々をお招きしており、その実態について議論するとともに、メゾソーシャルワーク実践の必要性を明らかにしていくことをねらいとして企画しています。詳細は、日本社会福祉学会のホームページの「地域ブロック情報」にもアップしておりますので、そちらをご覧ください。また、研究大会では、自由研究発表の枠を設けており、毎年10名程度の発表が行われています。

また、年3回開催されている若手研究者・院生情報交換会は、今年度で39回の開催を重ねることができました。ひとえに関西地域ブロックの研究文化の歴史と各会員のご協力の賜だと思っております。第37回若手研究者・院生情報交換会では、「若手研究者の研究教育スタイル」をテーマとして、龍谷大学サテライトキャンパスにて、松本しのぶ会員（京都光華女子大学）が「父親の家庭・地域参画の促進を意図した家族参加型子育て支援プログラムの開発」について、郭芳会員（同志社大学）が「中国の介護市場に進出した日本式介護サービスへの国際的評価に関する研究」をテーマに発表をいただきました。第38回若手研究者・院生情報交換会は、大阪府立大学中百舌鳥キャンパスを会場として質的研究の第一人者である佐藤郁哉先生（同志社大学商学部教授）をお迎えして、「定性的（質的）研究とは？ーエスノグラフィーの場合ー」をテーマにご講演いただきました。山野則子会員（大阪府立大学）をコーディネーターに、西田芳正会員（大阪府立大学）、田垣正晋会員（大阪府立大学）を指定討論者として活発な議論がなされました。100名近い参加者が集い、盛会のうちに終了いたしました。第39回若手研究者・院生情報交換会では「国際比較研究の枠組み構築-研究対象設定を中心に-」をテーマに、基調講演として陸麗君先生に（華東理工大学客員研究員）「比較研究の枠組み構築について」をお話いただきました。また、羅佳会員（四国学院大学准教授）、任貞美氏（同志社大学博士後期課程、）姜民護氏（同志社大学博士後期課程）からは、国際比較研究が抱える課題やジレンマについてご報告いただき、それを受けて聴講しているフロアからも質問が出され活発な議論がなされました。3回あるうちの1回は、留学生のためのテーマを設定していこうとする関西地域ブロック委員会のねらいは、見事に成功しており、年々議論が深まっている様相を見せております。

今後とも、関西の地域特性を基盤とした自由な気風と活発な議論と研究を展開していければと思います。今後とも会員各位のご協力をお願いしたいと思います。